

〔松屋筆記 九十四〕 續鼻禪

麻良も破留の通音にて、張ふくる、よしの名にても有べし、

〔松屋筆記 八十一〕 陽物をまゝといふ

隠莖をまゝといふは、もと縮たるさまよりいへるにて、關東にては小兒童の陽物にかぎれる詞也、新撰狂歌集卷下 雜部に、教月僧ある時、女院の御所御庭せばきとて、此人の地をとりて、御庭のまへをひろげ給へば、

にようゐんの御まへのひろくなる事はけう月ばうがまゝのいるゆるゑ、四至の入に陽物の入をよせたり、

〔倭名類聚抄三〕 陰核。食療經云、食蓼及生魚、或令陰核疼。陰核、俗云 刑德教云、丈夫淫亂割其勢者勢者

核則陰也

〔箋注倭名類聚抄二〕 醫心方引養生要集云、食蓼噉生魚、令氣奪、或令陰核疼至死、與此所引文略

同、金匱要略、蓼和生魚食之、令人奪氣、陰核疼痛、按醫心方陰核陰卵、萬安方卵同訓、按核覆假借字、

詳見果臝具略 中 刑德放、尚書緯也、今無傳本、撰人卷數並不詳、太平御覽引無亂字、按尚書呂刑、苗

民五虐之刑曰、法殺戮無辜、爰始淫、爲劓、劓、椽、黥、正義引鄭玄云、椽謂椽破陰、又云、蓋謂椽陰、若於去

勢、又韻會、外腎爲勢、折骨分經、外腎舉丸也、菽園雜記、明道雜志、快雪堂集、亦皆以外腎爲舉丸、是可

證勢非陰、故源君以勢爲陰核、其說是也、西土後世宮刑、割去陰莖者、誤、皇國今俗謂陰莖爲篇、乃古

亦誤、

〔類聚名義抄六〕 陰核 へノコ

〔伊呂波字類抄人部〕 陰核 へノコ

勢同 尻 へノコ

〔增補下學集上〕 陰核 勢同